

GSC020-08

会場: 101

時間: 5月23日15:30-15:42

第10回地震火山子どもサマースクール「火山が作った維新のまち・萩の景色のひみつ」

Secrets of the scene of Hagi City: The 10th Schoolchildren's Summer Course in Seismology and Volcanology

永尾 隆志^{1*}, 地震火山子どもサマースクール実行委員会 中川和之²

Takashi Nagao^{1*},

K. Nakagawa; WG for schoolchildren's summer course of seismology & volcanology²

¹山口大学大学院理工学研究科, ²時事通信社

¹Yamaguchi Univ., ²Jiji Press

2009年8月8日, 9日の2日間, 山口県萩市をフィールドにして全国から集まった小学校4年生~高校1年生 37名, スタッフ 44名の参加で「第10回地震火山子どもサマースクール」が開催された。主催は, 第10回地震火山子どもサマースクール「火山が作った維新のまち・萩の景色のひみつ」実行委員会(社団法人日本地震学会、特定非営利活動法人 日本火山学会、萩市、阿武町)、国際惑星地球年(IYPE)記念事業。

今回のサマースクールは, 約50の小さな火山からなる活火山・阿武火山群の中心に位置する萩市で行われた。日本地震学会・日本火山学会に所属する研究者や教師などが, 地元ばかりでなく東京, 神奈川, 千葉, 埼玉, 兵庫, 岡山, 福岡から参加した子どもたちと一緒に, ゲーム形式を交えた野外観察や身近な材料を使った実験を通じて, 火山や地震のしくみ, 火山と人の暮らし, 観光と自然災害について理解を深めた。

8月8日朝, 萩市中心部のサンライフ萩で開会式が行われ, 8つのチームに分かれて以下のようなプログラムが実施された。まず, 子どもたちには, 山口大学女子学生が扮する萩の火山の女神メグから以下の課題が与えられた。その1 きれいな景色はどうやってうまれたの? その2 小さい山や島には, どんなひみつがあるの? その3 「メグ」がくれたひみつの宝物ってなに? その4 私たちは, 火山とどうつきあっていけばいいの? その後, 萩市や周辺の島々が一望できる田床山の山頂展望台で「火山が作った萩の景色のひみつ」をさぐることになっていた。しかし, 山頂は霧におおわれていたので仕方なく用意しておいた写真を使って萩の景色の特徴を学んだ。昼食後はサンライフ萩に戻り「歯科印象材を使って火山を作ろう」, 「ゼラチンと食用油をつかって火山を噴火させてみよう」, 「スコリアを使ってミニ火山(スコリア丘)をつくろう」という実験を行った。次に, 実験で観察した現象は, 実際の火山で起こっていることと同じであることがビデオや写真で説明された。その後, バスで笠山まで移動し, スコリア丘の噴火口で地層を観察し, どのような噴火で地層ができたかを話し合った。また, 1.5リットルコーラの噴火実験を行い, 火山噴火の原理を理解した。その後, 宿舎の「萩観光ホテル」へ移動し, 夕食後, 萩の景色と関係する5つのテーマに分かれ, 研究者から話を聞いたり, 「学者と語ろう」のプログラムを楽しんだ。翌日は, ホテルの目の前にある「萩ガラス工房」で笠山の溶岩を融かした真っ赤なガラスが流れる様子を観察した。雨が降ったため, 風穴や海岸の溶岩堤防の観察は中止し, ホテルで海岸の溶岩とスコリア丘を作っているスコリアを比較してその違いを確認した。その後, 車窓から海岸の溶岩流を観察し萩博物館に向かった。萩博物館では海底を含む萩の地形模型を観察し, 「火山のめぐみ」について話し合ったり, ポリエチレングリコールを使って溶岩流の再現実験を行った。また, 萩博物館周辺の武家屋敷の基礎石や石畳などに笠山の溶岩が使われていることを観察して, 2日間のまとめと発表の準備のためにサンライフ萩に向かった。

午後からは、サンライフ萩で第1部市民のための公開講座「萩・地震火山フォーラム」が開かれ、萩と地震：「起こると思っていたいなかった」にならないために（武村雅之）、すばらしい萩の人と自然―ジオパーク活動のすすめ―（渡辺真人）の講演が行われた。その後、第2部 地震火山子どもフォーラム「僕たち、私たちがみつけた萩の景色のひみつ」では、子どもたちは班毎に「メグ」からの「おねがい」に答える形で2日間の成果を発表した。どの発表も素晴らしいものであった。

今回の子どもサマースクールは、日本地震学会、日本火山学会以外の資金を獲得することができず、財政的に困難であった。しかし、萩市の全面的な支援やスタッフの手弁当での参加で、大成功のうちに終わることができた。萩ガラス工房のご厚意で、溶岩流の再現実験を観察することができ、子どももスタッフもその迫力に興奮した。また、実験のひとつは、神戸高校の2年生2名が予備実験から当日の指導まで担当してくれた。山口大学理学部の院生・学生9名は準備段階から当日までの献身的に働いてくれたが、彼らにとっても得るところは大きかったようだ。また、スタッフの中には火山と無縁な防災や社会福祉関係の方もいたが、スクールが終わる頃には「火山が大好き」になっていた。今回参加した子どもたちが味わった感動を、多くの子どもたちにも分けてあげたい！ さらにグレードアップした子どもサマースクールを用意してあげたい！ そんな思いを持つ人たちと連携して「子どもサマースクール」を山口の地に根付かせることが今後の大きな課題である。なお、2010年度の第11回地震火山子どもサマースクールは、高知県で開催予定である。

キーワード:子どもサマースクール,地震,火山,阿武火山群,萩市

Keywords: schoolchildre's summer course, earthquake, volcano, Abu volcano group, Hagi City